

Annual Report 2025

Japan International Cooperation System

年報

2025年3月期



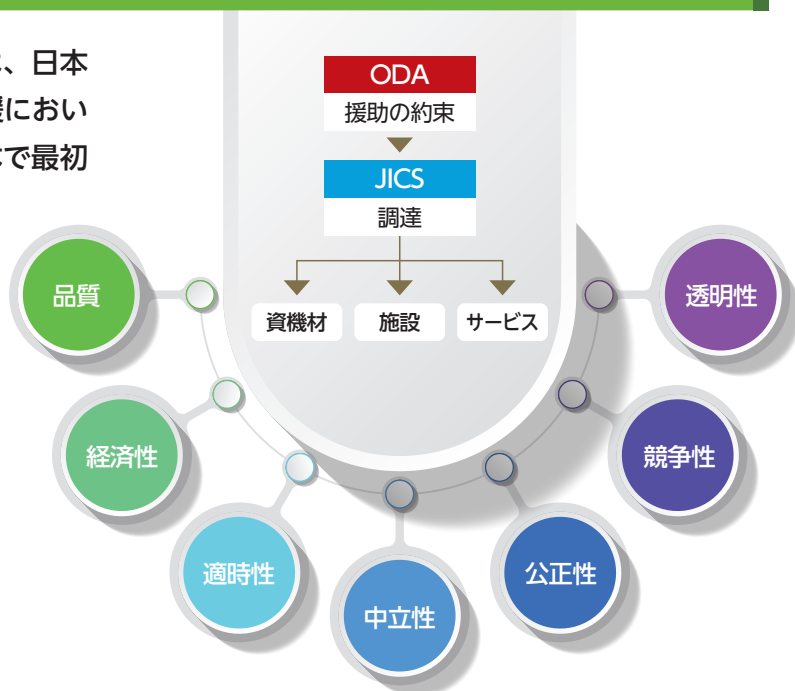
JICSのプロフィール

一般財団法人日本国際協力システム(JICS)は、日本の政府開発援助(ODA)や各種の開発途上国支援において、調達業務および管理業務などを行う、日本で最初の**調達専門機関**です。

調達機関の役割

国民の税金を原資とするODA資金を使った調達では、品質、経済性、適時性の確保に加えて、中立性、公正性、競争性、透明性が求められるため、公共調達のルールに則って、入札などを通じて資機材、施設、サービスを購入するとともに援助資金の適正な管理が必要となります。

このため、公共調達や資機材などの調達に係る専門知識やノウハウを持つ、JICSのような調達機関が、被援助国政府の代わりにこれらの手続きを行っています。



[国際協力活動での調達に求められる要件]

JICSの理念 (MVV)

JICS では、組織の理念に掲げている通り、国際社会の平和と安定に貢献するために、職員一人ひとりが開発途上国の現場や日本での活動を通じ、サービスの質の向上に努めています。

MVV

●MISSION

私たちは、国際協力分野におけるプレーヤーとして、国際社会の平和と安定に貢献します。

●VISION

私たちは、国際協力分野における世界最高水準のサービスを提供できる集団を目指します。

●VALUE

中立性、公正性、透明性

中立的な立場を維持し、公正性・透明性を確保します。

信頼性

現場の声に耳を傾け、クライアントとの信頼を築きます。

援助の効果

援助の効果が最大限に活かされるよう努力します。

創造と挑戦

既存概念にとらわれず、新たなサービスを創造し、提供することに挑戦します。

目次

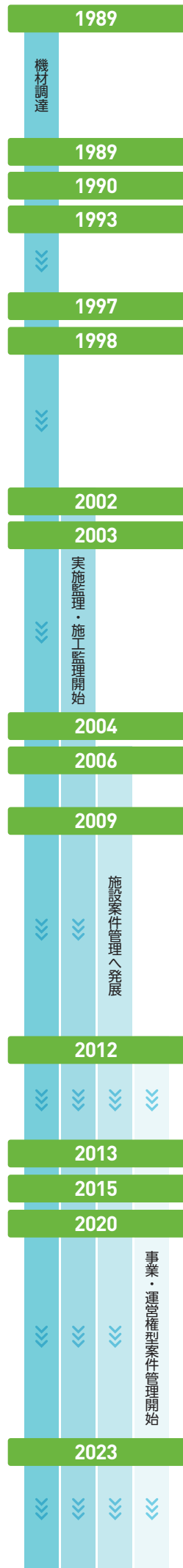
- 02 …… 代表理事あいさつ
- 03 …… 特集：座談会
アフリカ開発会議(TICAD)を通じた日本の開発支援の一翼を担う
- 06 …… 開発協力、ODAとJICS
- 09 …… JICS 2024年度の実績

事業実績

- 16 …… JICSの主要事業対象国
- 18 …… JICSのESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組み
- 19 …… 援助形態別・契約先別事業収益実績
- 20 …… 国別主要実績
- 22 …… 2024年度 新規案件
- 24 …… 2024年度 事業報告

参考資料

- 25 …… 2024年度 貸借対照表
- 26 …… 2024年度 正味財産増減計算書
- 27 …… 組織図と役員・評議員
- 28 …… コンプライアンス・行動規範
- 29 …… JICSの概要



財団法人として設立

- ▶ 技術協力関連業務の開始
- ▶ 無償資金協力関連調査、調達監理業務の開始
- ▶ 無償資金協力調達代理業務の開始

技術協力仕様書作成、食糧増産援助実施促進調査の開始

無償資金協力フォローアップ調査の開始

ノン・プロジェクト無償調達代理業務の開始

▶ 調達監理業務と調達代理業務の拡大

子どもの健康無償業務の開始

食糧増産援助調達監理、緊急無償業務の開始

1998 ～ インドネシア向け通貨危機支援緊急無償による医薬品、医療品調達、政府米の海上輸送

▶ 復興支援を通じた調達代理業務の多様化

研究支援無償業務、食糧援助調達監理業務の開始

紛争予防・平和構築無償業務の調達代理業務開始

2002 ～ アフガニスタン緊急無償の道路整備

2003 ～ カンボジア紛争予防・平和構築無償の小型武器回収

▶ 有償資金協力、国際機関関連業務の開始

▶ 調達代理業務の施設案件管理の拡大

円借款調達関連書類一次チェック業務の開始

国際機関関連事業、防災・災害復興支援無償、コミュニティ開発支援無償業務の調達代理業務開始

環境プログラム無償業務の開始

2004 ～ イラク復興支援の緊急無償での移動式変電設備、浄水設備、発電所の整備

2005 ～ スマトラ沖大地震被害支援のノン・プロジェクト無償での護岸復旧・病院整備、橋梁設置

2006 ～ ASEAN 事務局・国際獣疫事務局の鳥インフルエンザ対策支援

一般財団法人(非営利型)へ移行

▶ 競争力強化と従来型事業の深耕

▶ 官民連携・民間セクターにおける新規事業開拓

中小企業海外展開支援事業の参画開始

事業・運営権対応型の無償業務受託

円借款案件コンサルタント契約の受託

2016 ～ 事業・運営権対応型のカンボジア王国コンポントム上下水道拡張計画

2020 ～ 新型コロナウイルス感染症対策のための無償資金協力「経済社会開発計画」

2022 ～ 包括方式による無償資金協力：ウクライナ「緊急復旧計画」

政府安全保障能力強化支援(OSA)の調達代理業務の受託



モンゴル ノン・プロジェクト無償



インドネシア 通貨危機支援緊急無償



カンボジア 紛争予防・平和構築(武器回収)



コスタリカ 環境・気候変動対策無償



カンボジア コンポントム上下水道拡張計画



ウクライナ 緊急復旧計画(瓦礫処理)

国際社会の平和と安定と
繁栄への貢献を目指しつつ、
日本政府が重視する
国際協力事業に
真摯に取り組みます。



激動する国際社会の支援ニーズに調達で貢献

国際社会における様々な地球規模課題に対する取組みでは各国の協調が重視され、SDGsの達成という共通の目標に向かって邁進する一方で、国際秩序を揺るがす紛争が次々と発生しています。そうした中、世界の平和と安定への寄与という観点からも日本政府の実施する国際協力事業の重要性を日々感じています。その具現化のために、JICSは、調達という専門性を活かして機動的かつ的確に対応することを組織の指針としています。

恒久的課題から新たな地球規模課題まで 幅広い支援への取組み

JICSは、調達代理機関として、アフリカ地域では、食料安全保障の強化を必要とする各国への食糧の調達や保健医療分野の施設建設などの案件監理に携わり、また当該国の状況や事情に応じてデジタルツールを活用しながら、各国とのネットワークを活かして調達を推進しています。アジア・大洋州地域では、海上保安能力強化、環境保全や気候変動対応などに資する多種多様な品目を調達する中で、繁栄に向けた基盤の一つとなるデジタル化支援の案件にも携わっています。大洋州における他の支援国と被援助国の6カ国が協調して実施する通信インフラ強化を目的とする海底ケーブル敷設事業は、多くのステークホルダーと協調しながら調達を推進するもので JICSにとっても初めての取組みとなります。

また、世界各国が動静を憂慮するウクライナについては、サプライヤーとメーカーの皆様へ、輸送や引き渡しの課題も調整のうえ、復旧・復興支援関連資機材の調達にご協力いただいております。

国際情勢の影響を受ける中であっても、我々が業務を進められるのは、外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)、被援助国政府、そして国際協力に携わる関係企業の皆様のご支援があってこそと深く感謝申し上げます。

国際協力事業に関わる多様なアクターの 協力関係を深めて、最適な事業実現を目指す

JICSは事業拡大の取組みも継続しており、アフリカ向けワクチン緊急支援に係る国際輸送や、日本政府が2023年に創設した政府安全保障能力強化支援(OSA)の調達などにも取り組んでいます。

国際社会の平和と安定、繁栄を支援する日本政府の取組みの一端を担い、支援を形にできることは調達機関としての喜びです。私たちJICSは、これまで蓄積したプロジェクト監理と国際調達に関連する豊富なノウハウを軸に、国際協力における「インテグレーター」を目指す組織として、日本政府、被援助国政府、関係機関、企業それぞれのニーズを理解し、つなぎ、日本の国際協力事業の効果発現の最大化を図るためにスタッフ一丸となって邁進してまいります。

2025年9月
一般財団法人 日本国際協力システム
代表理事 竹内 和樹



アフリカ開発会議(TICAD)を通じた 日本の開発支援の一翼を担う

天然資源に恵まれ、約14億人の人口を擁するアフリカは、ダイナミックな成長が期待される大陸です。一方、貧困や紛争、テロ、インフラ不足など多くの課題も抱えています。日本政府は1993年以來、国連などとの共同によるアフリカ開発会議(TICAD)の開催を通じて、オーナーシップとパートナーシップを軸にしながら「平和と安定」や「人間の安全保障」、「持続可能な開発目標」などその時代の課題に応じて協力関係を変革しつつ継続的な支援を行っており、JICSも国際協力分野のインテグレーターとしてその一翼を担っています。アフリカ開発支援プロジェクトに携わる3名の職員が、JICSの活動について意見を交わしました。

出席者



業務第一部
地域第一課 課長

村山 博紀
(むらやま ひろき)



業務第二部
地域第六課 課長補佐

城 美智子
(じょう みちこ)



業務第二部
地域第六課

吉水 眞菜
(よしみず まな)

人々の命と安全を支える資機材を 迅速・確実に現地へ届けるために

城 JICSは20年にわたり食糧援助に取り組んでおり、外務省や農林水産省と連携しながらアフリカを中心とした被援助国向けに食糧を調達しています。具体的には被援助国へ食糧を輸送するサプライヤーの選定や陸・海上輸送の管理など、被援助国政府や外務省や大使館とやりとりをしながらプロジェクトが円滑に進むよう努めています。

その中で私が携わったプロジェクトの一つが、2023年度のブルキナファソへの食糧援助です。同国は食糧援助の頻度や供与額が高く、日本米は「おいしい」と国民の人気の高いため、政府・国民ともに日本の食糧援助を心待ちにしています。一方、内陸国のため海上輸送を経て近隣国で荷揚げ後、列車や

トラックで現地まで運ばなければならず、プロジェクトでは情勢悪化に伴う輸送中のトラブルに見舞われるのが最大の懸念点でした。そのため政府やサプライヤーと密に連絡を取り、問題が発生した際に迅速に対応できる体制を整えたうえで輸送に臨んだ結果、無事に完遂することができました。

被援助国を訪れた際、食糧援助で届けられた日章旗が付いた日本米が市場に並んでいたりと、現地の方々から「とてもおいしい」と言っていただけると本当にうれしく思います。皆さんが心待ちにしている食糧を欠損なく現地に届けることが私たちの使命なのだと思えます。

吉水 私は、2024年度の案件としてアフリカ大陸の最西端に位置するセネガル向けに地雷除去機を調達するプロ

ジェクトに携わっています。セネガルの国境付近には地雷が残っている地域があり、そこに立ち入れないことが同国の経済活動に重大な支障を及ぼしていました。現地出張の際、地雷除去センター長や経済開発協力省の担当者から対象地域の地雷除去を通じて経済発展を目指す熱い思いを伺い、JICSの責任の重さを改めて認識しました。同時に、資機材を調達するだけでなく、調達した地雷除去機が実際に使用され、人々の生活向上につながるということに大きなやりがいを感じます。

城 同じく2024年度にはこれまでの調達代理業務の枠を超えた新たなプロジェクトにも取り組みました。エムポックス(旧称サル痘)の流行が拡大しているコンゴ民主共和国にワクチンと注射針を供与するという厚生労働省のプロ



カーボベルデ食糧援助 小麦粉の納入



セネガル経済社会開発計画
地雷除去機の船積立会い



コンゴ民主共和国・日本政府による
エムポックスワクチン引渡し式

ジェクトで、私たちJICS自身が現地に届けるサプライヤーの役割を担うこととなったのです。調達代理業務とは異なる業務に挑戦することになりました。特に迅速さと厳密な温度管理が求められるワクチンの国際輸送を行うことに最初は困難を伴うこともありましたが、長年の経験で得た現地に関する知識や国内外の幅広いネットワークを駆使し、また厚生労働省やコンゴ民主共和国政府、現地の日本大使館などさまざまな関係者のご協力を得て納入することができました。現地からは日本政府に対する感謝の声が届いています。

施設建設の取組みを通じ、暮らしや医療、教育に寄与する

村山 JICSでは資機材の調達のほか、アフリカ各国の暮らしや教育に寄与する施設建設にも取り組んでいます。その中で私が担当した案件の一つが、2007年度から約4年をかけて実施したベナン共和国における小学校51校(249教室およびトイレ)建設プロジェクトです。それまでの日本の無償資金協力による施設建設プロジェクトは日本の建設コンサルタントや施工会社が現地に赴き建設していましたが、同規模の援助額でより多くの学校を建設することを目的に、日本政府は2006年から2014年まで現地仕様・設計の導入や、現地事業者・資機材の積極的な活用によるコミュニティ開発支援無償を実施し、JICSはアフリカではこのスキームの援助額約420億円規模の39案

件に取り組みました。私自身もベナンに常駐し、アシスタントプロジェクトマネージャーとして初等教育省との協議、現地建設コンサルタントや施工会社選定のための入札、プロジェクトの進捗監理などを行いました。現地建設コンサルタントや施工会社を活用することで現地の事情に即した柔軟な対応が可能になる一方、工程管理や質の確保のためにさまざまな配慮が求められる難しいプロジェクトでしたが、3年半で4県に51校を建設することができました。今でも同国に赴いた際は学校を訪ねますが、何年経っても大切に使ってくれている先生や子どもたちの姿を見ると胸が熱くなります。

吉水 施設建設としては現在、ブルキナファソの10の保健行政区にCSPS(保健社会向上センター)を建設するとともに、CSPSが継続的に活用されるための井戸や焼却炉、ソーラーシステムを設置するプロジェクトに携わっています。

JICSの建築士や施設建設のプログラム監理経験が豊富な担当者が現地調査を実施し、施工条件などについて同国保健省と調整を行い、現地のコンサルタントや施工会社を選定。私は日本のJICS本部で契約締結手続きやコンサルタントおよび施工会社などへの支払い処理を担当しています。私たちはローカルスタッフを介してコンサルタントや施工会社への照会、確認、依頼等を行うため、ローカルスタッフと認識に齟齬が生じないようメールやオンライ

ンミーティングツール、電話などあらゆる手法を活用し密に連絡をとるようにしています。

私自身はまだブルキナファソを訪れたことはありませんが、コンサルタントから毎月届く報告書で施設や井戸建設の進捗を知ることができ、大きなプロジェクトに携われていることを実感し、達成感を覚えます。

時代のニーズに応じ事業領域を拡大、柔軟な適応力がJICSの強み

城 JICSの強みは、これまでに培ってきた膨大な経験や知識が皆に共有され、新たなプロジェクトに活かされていることです。判断に迷ったときなどに組織内の先輩に相談すると、豊富な経験に基づく多くの助言が得られ、データベースなどの記録もしっかり残っていますので、新たなプロジェクトに挑戦するときもJICSが培ってきた経験や知識を最大限に活用できます。同時に、被援助国政府をはじめとする国内外の幅広いネットワークもJICSの強みの一つと言えるでしょう。国内外の幅広いネットワークを駆使し、皆で協力し合いながらプロジェクトを着実に進めています。

吉水 2023年の入団当初は調達代理のスキームはもちろん、資機材についての知識も不十分でしたが、課内や技術課など他部署の先輩にも相談に乗ってもらいながら地雷除去機や医療機器、肥料などの調達業務を一つひとつ進め



セネガルコミュニティ開発支援無償小中学校建設



ベナンコミュニティ開発支援無償小学校建設



コモロ経済社会開発計画警備艇引渡し式

ていくことができました。課の垣根を超え JICS 全体で支え合いながらプロジェクトを前進させているのだと実感しました。

村山 JICS はさまざまなプロジェクトに取り組んでいますが、もとは石油や鉄など資材の調達からのスタートでした。それが地雷除去機や医療機器など機材の調達も担うようになり、学校や CSPS など施設建設の案件監理を実施するまでになりました。JICS は時代のニーズや日本政府の要望に応じ事業領域を拡大しており、そのように柔軟に変化できることが JICS の最大の強みだと思います。そしてそれが実現できるのは、これまで JICS が培ってきた豊富な実績と知見が活かされているからです。

また、アフリカの開発支援について言えば、フランス語圏であるアフリカのプロジェクトはフランス語で業務ができる人材が担当者となっています。被援助国政府や実施機関、ローカルスタッフなどと直接、円滑なコミュニケーションができ、強固に連携できているのも JICS の大きな強みだと思います。

ニーズをくみ上げ、つなぎ、援助を具体的なカタチにしていこう

吉水 今後の目標は、ローカルスタッフをはじめとする現地の人たちとのコミュニケーションの量と質の両方を向上させていくことです。コロナ禍でデジタルを活用したコミュニケーション手段が普及したことにより、例えば情



勢悪化で入国が難しい国のローカルスタッフとも打ち合わせができるようになりました。もちろん現地に赴き対面で話すことは大切ですが、それだけではなく電話やメール、オンラインミーティングツールなどその時々に応じた手段を選択し、頻繁に密接なコミュニケーションを取ることが重要と考えています。

城 「JICS であればできるだろう」と新しいプロジェクトを任せただけなのはとても光栄なことであり、それは歴代の先輩が懸命・着実にプロジェクトを進め、次に活かしてきてくれたからだと思います。そうした諸先輩に続き、私も培った経験や知識を次に活かせるよう、一つひとつのプロジェクトにしっかりと向き合いながら一步一步確実に進めていきたいと考えています。その時代のニーズに応じて柔軟に対応するとともに、現状に満足せずよ

り成長できるよう、引き続き業務に励んでいきたいと思っています。

村山 今後も主軸である調達代理業務に注力していきます。調達代理業務では、コロナ禍に 50 カ国以上の医療機材調達を行い、近年ではウクライナ復興・復旧支援の機材調達に従事するなど時代のニーズに迅速に対応しています。一方、ワクチンの国際輸送や SDGs に貢献する優れた技術、製品、ノウハウを持つ民間企業の進出支援など、事業領域の拡大にも引き続き取り組んでいきたいと思っています。そして、国際協力分野のインテグレーターとして、日本政府や被援助国政府をはじめ、さまざまなステークホルダーのニーズをくみ上げ、つなぐことで、援助や国際協力事業を具体的なカタチにしていき、国際社会の平和と安定に貢献したいと考えています。



カメルーン現地コーディネータが引渡し式にて JICS 代表としてスピーチするようす



ブルンジ救急車操作トレーニング (写真提供：豊田通商株式会社)



モーリシャスでの協議風景